

地域のみな様と、私たちがむすぶ広報誌

Vol.23

2014.10
Autumn
秋号



公立南丹病院

Nantan General Hospital



亀岡祭り：秋の深まりとともに、旧亀山城下の街角から祇園囃子の音が響いてきます。口丹波の祇園祭として親しまれている亀岡祭は、くわやま 鍬山神社の鍬山宮・八幡宮二社の例祭で、亀岡最大の秋祭りです。現在は10月1日から26日にかけて行われ、10月20日は御出祭とも呼ばれ、おいでまつり 鍬山神社より鍬山宮、八幡宮それぞれの神輿が御旅所へ出御し、25日の本祭りまで鎮座することとなります。（写真提供 亀岡市観光協会）

Contents

- 虫の音の澄み渡る季節に ①
- 第16回 公立南丹病院学術集会 ②
- 診療科紹介[内科系] - 脳神経内科 ③
- 第16回 日本褥瘡学会に参加して ③
- 診療科紹介[外科系] - 整形外科・リウマチ科 ④
- 2014年度「世界糖尿病デーイベント」
開催のお知らせ ④
- 部門紹介 地域医療連携室 ⑤
- 公立南丹看護専門学校 ⑥
- 平成26年度 地域医療教育推進事業 ⑦
- 平成26年度 京都府総合防災訓練に参加して ⑦
- 成長期のスポーツ障害について ⑧
- 「無料糖尿病教室」を開催して ⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方 ⑨
ぬくい泌尿器科医院
嶋村歯科医院
- 南丹市花火大会 ⑩
- 公立南丹看護専門学校 学校公開のお知らせ
- 公立南丹看護専門学校 平成27年度 学生募集
- 看護師・助産師募集
- 編集後記

臨床研修指定病院 京都府がん診療連携病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター

公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096
<http://www.nantanhosp.or.jp>



虫の音の澄み渡る季節に

院長 ^{たつみ}辰巳 ^{てつや}哲也

今年の夏も例年に違わず、蒸し暑く本当に厳しい暑さでした。しかも8月の終わりには台風や低気圧の影響で日本列島に局地的な豪雨が降り、福知山市や広島市の皆様が大変な災害に遭われました。謹んで心よりお見舞いを申し上げます。南丹市や京都市にも大雨が降り、私も通勤に支障を来すのではないかと危惧し



たこともありました。最近の気候変動による災害はこれまでの予想をはるかに超えることもあり、病院の危機管理として日頃より十分な備えと注意をしていきたいと考えています。皆様方には季節の変化が激しい折、ご体調にくれぐれも留意されてご活躍頂くことを願っております。

さて8月には京の夏の夜空を焦がす京都の名物行事・伝統行事である「五山の送り火」がありました。葵祭・祇園祭・時代祭とともに京都四大大行事の一つと言われています。毎年8月16日に、大文字、松ヶ崎妙法、舟形万灯籠、左大文字、鳥居形松明の順で五山に炎が上がります。五山の送り火とはお盆にお迎えしたご先祖様の霊、(お精霊さんと呼ばれる死者の霊)を再び浄土にお送りする、精霊送りのかがり火を五つの山で焚く行事ですが、他の祭り同様に文化的な遺産を頑なに守り続けておられる京都の歴史にいつも感銘を覚えています。私の自宅はちょうど「松ヶ崎妙法」の南方にあります。8月15日がちょうど日本の終戦の日でもあり、お盆の行事として毎年自宅から少し歩いて「妙」の字の送り火を近くで見つめながら、ご先祖様や亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、私達の子供の世代にも平和な社会が続くことを願うことにしています。

9月の始めには毎年恒例となりました京都府地域医療推進教育事業(医大GP)が行われました。この教育事業の趣旨は、医療を志す若い学生が大学病院という大都市に存在する病院の最先端医療を学ぶだけではなく、都市から離れた京都府北部の地域医療の現場を体験して、地域医療の魅力や地域医療が抱える問題点を目を向けて頂くことであると理解しています。今年も京都府立医科大学医学部5回生の学生17名、看護学科4回生の学生2名の方々が、当院を起点に地域医療、チーム医療、救急医療の現場を1週間にわたって実習しました。このGPを支えて下さったスタッフの皆様にも厚く感謝申

上げます。特に船井医師会、亀岡市医師会の開業医の先生方、花ノ木医療福祉センターの先生方には、日常臨床のお忙しい時間を割いて頂き、温かく学生の指導を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。開業医の先生方を訪問させて頂いた医療研修後の宿泊研修では、GP初日ではみられなかった学生達の明るく充実感に満ちた積極的な笑顔を見て、スタッフともども今年も無事に教育事業の責任が果たせたように感じました。先生方が患者さんから愛され信頼されている姿、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行っている姿を目の当たりにして、都市から離れた地域においても充実した医療が行えていることに感銘を受けた学生が多くいたことを喜んでいます。まさに「医の心」の原点に触れられたことは学生達の大きな財産となったはずです。今回研修を受けてくれた若い世代のエネルギーが当院をはじめ、この医療圏の地域医療を支える原動力になってくれることを心から期待しています。

いよいよ10月からは病床機能報告制度が開始されます。医療機能の分化・連携の進め方と今後の方向については、まだまだ不確定なことが多くありますが、まずは現状における病床機能や医療の内容を報告し、地域医療構想のガイドラインに基づいて、6年後の地域医療ビジョンを策定していくことになるかと思われます。当院での自主的取り組み及び医療機関相互の協議が必要です。是非とも地域事情に応じたガイドラインが策定されることを期待しておりますし、京都府との「協議の場」においても当院がこの医療圏で急性期疾患やがん診療などの高度医療を担っている「現状」と「今後の方向」をご理解いただき、地域医療の提供体制が整備されることを願っております。そのためにも、慢性的な看護師不足を解消する必要があります。特に助産師不足は深刻であり頭を悩ませています。また一部の病棟が未だ閉鎖しておりますが、患者さまの入院や外来を制限することは決してありません。看護師確保のためのプロジェクトチームを作り、日々努力致しておりますが、もしこの地域で働くことを希望される看護師・助産師の方や免許を持ちながら就労されていないご家族やお知り合いがおられましたら是非ともご紹介下さい。脳卒中センターは脳神経外科・内科スタッフの努力により、完全ではありませんが24時間対応の体制を取ようになりました。今後も解決していかなければならない課題は山積していますが、地域包括医療の中心的役割を果たして最終拠点病院として発展していくように、皆様のご協力とご支援を宜しくお願い致します。

近隣の水田の稲も無事に育ち黄金色に輝く稲穂に成長してきました。GPで学生達と宿泊した施設では静けさの中に、澄み渡る虫の音が響き、少し早い秋の訪れを感じさせてくれました。皆さまの秋がさわやかなものでありますようにお祈りしております。

病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

患者さまの権利と責務

私たちは患者さまの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

第16回 公立南丹病院学術集会

南丹病院学術集会実行委員長（眼科部長） 伴 由利子 ばん ゆり こ

去る平成26年8月23日に、当院第二病棟5階の講堂にて「第16回公立南丹病院学術集会」を開催しました。職員を中心に参加者は150名を数えました。この会は1997年に第1回を開催して以降、原則毎年8月におこなっています。

病院の業務は様々な職種から成り立っています。そこで、本会では毎回各部門から広く発表をしてもらっています。今年も、医師、薬剤師、臨床工学技士、作業療法士、診療放射線技師、看護師、事務局と多彩な部門からの発表がありました。



特別講演 遠藤啓吾先生



特別講演



一般演題

特別講演には京都医療科学大学学長の遠藤啓吾先生えんどうけいごに「原発事故による甲状腺障害と梶田先生の研究」の演題でご講演いただきました。遠藤先生は核医学、甲状腺疾患が御専門で、首相官邸への助言のための「原子力災害専門家グループ」のメンバーでもいらっしゃいます。

当日のご講演では、甲状腺機能亢進をとまなう「バセドウ病」の原因には甲状腺刺激ホルモン受容体抗体が関与していることの発見など、故梶田芳弘前院長の業績をご紹介いただきました。また、福島の実況や実際の放射線による健康への影響、安定ヨウ素剤の効果や服用の方法などについて幅広くお話していただきました。講演を拝聴し、マスコミなどの情報に惑わされることのないように、正しい知識を持つことが重要であると痛感しました。



学術集会実行委員

日々の多忙な業務の中で、発表に向けてテーマを決めて、アンケートをとったり、さまざまなデータを集めたり、さらにはその結果をまとめるのはなかなか骨の折れる作業です。しかしこうした発表の準備の過程で、新しい知識を得ることができます。日頃、漫然と疑問に感じていたことを系統だって調査研究することで、新しい発見があると思います。医療の進歩は著しく、医療に従事する者は常に学ぶ心を持つことが大切です。学術集会の開催が、我々病院職員の「学びの心」の維持に役立ち、さらには患者さんへのより良い医療へと繋がればと思っています。

脳神経内科 *Neurology*

脳神経内科部長 牧野 雅弘 まきの まさひろ

脳神経内科は、当院では内科の一部門として存在しております。対象疾患としては、主に脳卒中（特に脳梗塞）やパーキンソン病、認知症、てんかんなどの脳疾患や、しびれなどを来す末梢神経や脊髄の病気などで、その診断や手術をしない内科的治療を行うことを専門としております。

今年度は、私と小泉崇^{こいずみ たかし}医員とが4月から着任させて頂きました。昨年からは脳神経外科と共同で脳卒中センターも運営しており、急性期の脳卒中の対応にも当たらせて頂いております。しかし、この春には、この脳神経・脳卒中センターをめぐる、医師不足から、急性期の脳卒中対応が全く出来なくなるのではないかとの新聞報道がなされました。

そのために、地域住民の皆様、消防関係の方々、病院職員の皆様には、多分に御心配と御迷惑をお掛け致しましたこと、この紙面を借りて深くお詫び申し上げます。現在は、実質的に昨年度までとほぼ同様な対応が出来るようになっておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

一方、我々にとって今年は画期的な出来事もありました。浅田真妃^{あさだ まき}看護師（ICU勤務）が、超難関の試験に合格し、脳卒中リハビリテーション看護専門ナースが当院で初めて誕生しました。京都府全体でも十人程



度しかない貴重な存在です。今後、主に急性期の脳卒中患者さんのために、我々も一緒に頑張っていきたいと心新たにしているところです。

さて、今年の脳神経内科の目標は、患者さんに常に安心感を持って頂けるような、安全で確実な、そして地に足をつけた診療を実行することです。また、患者さんには常に分かりやすい説明をすることを心がけていきたいと思っております。私自身は、京都府立医大附属病院・京都第一赤十字病院・京都第二赤十字病院などで、神経内科医として永くお世話になり、様々な神経疾患に対応して参りました。どんなに些細かと思われることでも結構です。どうかご遠慮なく、何でもご相談下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

第16回 日本褥瘡学会に参加して

皮膚・排泄ケア認定看護師 船越 千里 ふなこし ちさと

毎年、褥瘡対策委員会メンバーとともに参加しています。今年度は名古屋国際会議場において、「長寿社会における褥瘡医療・ケアの融合」というテーマでおこなわれました。超高齢社会を迎え、2013年度の高齢化率は25.1%となり、老々介護世帯が増加しています。

体位変換ひとつにしても、予防的に2時間おきが当たり前のようにおこなわれてきましたが、筋の緊張をとり、ある関節を緩める、曲げるなどの小さく変化させる方法でも、患者の身体機能が低下しないのであれば、看護、介護負担の軽減にも寄与できるのではないかとこのポジショニングのあらたな考え方も発表されていました。

いかに看護、介護負担を軽減できるかということは大きな課題ではないかと思ひます。当院においても、入院時の持ち込み褥瘡が大きな問題となっています。そのため、在宅への介入が重要な課題となっており、院内だけではなく地域との連携を密にし、多職種がチームとして在宅へ出向いていく必要性を実感しています。



整形外科・リウマチ科

Orthopedics, Rheumatology

整形外科部長 藤原 靖大 ふじわら やすひろ

整形外科はご存じの通り運動器を専門に扱う診療科で、脊椎・四肢の骨、関節、神経、筋肉、靭帯、腱など扱う臓器が多部位にわたるため、各分野ごとに専門性が必要となってきます。現在当科では副院長を含め常勤医師7人で担当していますが、大まかに脊椎班と関節班に分かれており、骨折などの外傷は全員で協力して取り組んでいます。

整形外科での手術件数は年々増加傾向にあり、平成25年は591症例に達し、六百の大病に乗るのも時間の問題かと思われま。その内では外傷による骨折手術が最も多く191症例でした。次いで多かったのが脊椎に関する手術で151症例になります。これは骨折など外傷手術を除く慢性疾患手術の半数近くにのぼり、当院整形外科の特徴を現しています。脊椎を担当しているのは小倉卓副院長をはじめ、林田達郎部長（リハビリテーション科兼任）、成田渉副部長、横尾智医師です。南丹医療圏を含む京都府北部地域は脊椎専門医が当院以外はほとんど無く、そのため南丹医療圏外の若狭地方や綾部方面からも患者さんが来られてほぼ毎日のように脊椎手術が行われ、さながら脊椎センターのようになっています。最近のトピックスとしては成田渉副部長が新しい脊椎手術術式XLIF（Extreme Lateral Interbody Fusion：エックスリフ）を導入し、成績向上に一役買っており、他施設から手術術式の見学にも来られる様になっています。

関節を担当しているのは私藤原靖大をはじめ、琴浦義浩医師、村上幸治医師です。その中でも藤原靖大と村上幸治医師は主に人工関節を担当し、平成25年は人工股関節置換術、人工膝関節置換術を合わせて46症例でした。最近では人工股関節手術に症例を選んで



DAA（Direct Anterior Approach）を採用しており、脱臼率の低下と早期退院に貢献しています。琴浦義浩医師は小児整形とスポーツ整形を専門としており、少年野球の投球障害にも造詣が深く、ポータブル超音波装置をもって各地の野球肩肘検診に積極的に行っています。また検診だけでは無く肩関節、肘関節の関節鏡手術や、肩腱板断裂手術など上肢の手術を幅広く行っています。そして村上幸治医師、琴浦義浩医師が赴任されてからは膝前十字靭帯再建術も積極的に行えるようになり、平成25年には7症例施行するようになりました。

関節リウマチに関しては藤原靖大がリウマチ専門外来を担当し、内科呼吸器科のお世話になりながら生物学的製剤を導入して積極的な治療を行っています。

このように各人が得意とする分野にて専門性を高め、南丹病院でしか提供できないようなよりよい医療ができるように頑張っていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いたします。

◆2014年度「世界糖尿病デーイベント」開催のお知らせ

日時：平成26年11月10日（月） 9時～12時

場所：本館1階中央受付前および第1病棟エレベーター前（1階・3階連絡橋側）3ヶ所

内容：血糖測定、神経障害や足病変チェック、運動療法のいろいろ、食事に関すること、糖尿病に関するDVD上映ほか。

管理栄養士、薬剤師、看護師など、それぞれのスタッフが説明させていただきます。今年度は、管理栄養士の実習生も参加予定です。外来やお見舞いのついでに、イベント会場にお立ち寄りください。

スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。（糖尿病委員会）

部門紹介

地域医療連携室

地域医療連携室長・総合内科部長 かわの ひでひこ 河野 秀彦
地域医療連携室主幹 しもにし もとふみ 下西 基文

地域医療連携室は、平成26年5月15日からサポート体制を強化するため、医事課地域医療連携係から地域医療連携室と改めました。その役割は、地域の医療機関、保健・福祉の各機関との連携を深め、患者さんとそのご家族を適切にサポートできるよう橋渡しを行う部署で、2つの係で構成しています。

前方連携を担う地域医療連携係は、患者さんが安心してスムーズに診察していただくよう紹介元医療機関との連携を図ります。患者さんが来院されましたら、第一報として紹介元医療機関へ来院報告をいたします。診療情報提供書につきましては、後日、担当医師よりあらためて報告いたします。

後方連携を担う退院調整係は、患者さんやご家族と相談しながら、必要なサポートを行います。病棟担当として社会福祉士を配置し、地域のケアマネジャーと協力し、入院患者さんの退院支援を行っています。

地域医療連携室長・総合内科部長 かわの ひでひこ 河野 秀彦

平成26年5月15日から、地域医療連携室長を拝命しました。

かかりつけ医の先生方と連携し、適切かつ高度な医療サービスを提供するために、医療連携を図っていきます。

地域医療連携室主幹 しもにし もとふみ 下西 基文

患者さんの治療が適切に行えるように、病病連携、病診連携がすすむように日々努力します。新しい地域医療連携パスなどの提案をしていきます。かかりつけ医の先生方、是非ご紹介をお願いいたします。

地域医療連携係主事 はしもと ゆうた 橋本 雄太

患者さんにとってよりよい治療が行えるように、迅速で的確な前方連携に努めていきます。未熟者ではありますがよろしく願います。

地域医療連携係 まつもと はつみ 松本 初美

スムーズな連携を心がけていきたいと思えます。よろしく願います。

退院調整係長 やまもと いさお 山本 伊佐雄

地域医療連携室での、前方連携、後方連携の充実を図り、患者サポート相談支援担当者として、様々な相談に対応し患者さんをサポートしていきます。よろしく願います。

退院調整係主査 いまにし のりゆき 今西 規介 (社会福祉士・介護福祉士)

在宅復帰に向けた介護サービスの利用相談や、ケアマネジャーなどの事業所との連絡調整、リハビリや療養目的での転院調整などの退院支援・調整業務を主に担当しています。今後ともよろしく願います。

【担当病棟】第1病棟3階、第1病棟5階、第2病棟2階西、第2病棟4階東

退院調整係主査 ふなごし ゆみ 船越 由美 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)

患者さんやご家族さまの入退院に関する様々な問題に対して、不安を和らげ、安心した療養生活・社会復帰ができるよう地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携しながら支援させていただきます。よろしく願います。

【担当病棟】第1病棟4階、第2病棟2階東、第2病棟3階東、第2病棟3階西



後列左から 今西規介、山本伊佐雄、橋本雄太、松本初美
前列左から 下西基文、河野秀彦、船越由美

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校を知っていただくことを目的に、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。

平成26年度のオープンキャンパスは、8月8日でした。オープンキャンパスでは、看護学生が主体となり、日頃の講義・演習などを再現して参加者が体験できるように企画しています。また、日々の学校生活を少しでも伝えられるように、看護学生と参加者との交流会も行っています。今年は、南丹市をはじめ京都府下・滋賀・福井・長崎県などから72名の参加がありました。設置主体である公立南丹病院の看護部からは、病院の紹介・教育体制・先輩看護師たちの活躍などを伝えていただきました。

参加者からは、「看護学校について、いろんなことが分かった」「体験・模擬授業が分かりやすく、楽しかった」「看護学生の笑顔がよかった」などの感想をいただきました。



看護学校の動き

看護学生は、地域の方々とのかかわりを大事にしています。地域施設での実習はもちろんですが、ボランティアとして、地域の催しに参加させていただいています。

5月25日「あじろはっぴいまつり」があり、1年生が参加しました。「ゲームコーナー」と「駐車場の整理」を担当しました。ゲームコーナーでの利用者様方とのかかわりは、最初緊張しごちないものでしたが、いつの間にか一緒に歓声を上げ楽しんでいました。9月には「車椅子駅伝」10月には「ふれあいふくしまつり」12月は「南丹病院クリスマス会」などへの参加を予定しています。



平成26年度 地域医療教育推進事業

研修管理委員（小児科部長） ^{いとう ひさと} 伊藤 陽里

不安定な天候に右往左往した8月も明け、多くの実りを期待する9月を迎えました。そのスタートを飾る最初のイベントとして、9月1日から5日までの1週間、京都府立医科大学医学科5回生17名と看護学科4回生2名の計19名の学生が当院で臨床実習を行いました。この実習は地域医療の現状とそのあり方を学生が認識し理解を得る医学教育プログラムの一環として開催されています。

上田研修管理委員長の指揮のもと2ヶ月半の準備期間を経て練り上げた当院独自のプログラムは、当医療圏の在宅緩和ケアと救急医療の現状に関する講義で幕を開けました。その後グループ毎に褥瘡/NST回診、緩和ケアラウンド、ICTラウンド、リハビリ診療、臨床工学、病棟、外来、ICU、腎センター、薬局の見学や、訪問診療への同行、救急医療の見学を行いました。9月3日は当院周辺の開業医院、計13施設で小グループ研修を行い、その後湯の花温泉に場所を移してそれぞれの研修成果を発表してもらいました。その夜には平岡医院の平岡聡先生と訪問看護ステーションこころの中尾美千代先生より在宅医療に関する貴重な講演を頂いた後、両先生にもご参加頂いた親睦会で全員盛り上がりしました。

9月4日は花ノ木医療福祉センターを見学、9月5日は当院DMAT活動の紹介と亀岡市地域包括支援センターあゆみの ^{まつもとよしひこ} 松本善則センター長にご講演いただきました。このように盛りだくさんのプログラムに対し、学生からは大学病院では得られない貴重な経験ができたという感謝と、将来への選択肢が開けたことへの喜びの声が寄せられました。この中から一人でも多くの学生が、病院見学などで再度当院を訪れてくれることを願っています。

今回の事業が無事終了した事への感謝とともに、本事業にご協力頂いた多くの方々に心からのお礼を申し上げます。



平成26年度 京都府総合防災訓練に参加して

DMAT 隊員（臨床工学技士長） ^{たくま かずひで} 宅間 和秀

今年の夏は、災害の多い月となりました。特にゲリラ豪雨が多く、福知山市の水害、広島県での土砂災害があり、多くの犠牲者も出ました。そんな中での8月31日に京都府総合防災訓練が、木津川市中央体育館周辺グラウンドで開催されました。久しぶりの青空で気候も8月にしては涼しい日曜日となりました。当院 DMAT の6名と見学者京都医療科学大学学生吉田君とで救急車両で午前7時20分に出発し、長岡京市で蘇生会総合病院の吉川先生と合流し、訓練現場へ向かいました。

当院 DMAT チームの活動は倒壊ビルからの救出・救助でした。まず、相楽消防隊が状況把握し、京都府警によりレスキュー車で3階の要救助者をロープで救出、陸上自衛隊により1・2階要救助者を救出、ジャパンケネルクラブの災害救助犬による救助者検索、その後、当院 DMAT の3名、福田先生、中村看護師、那須技士が倒壊ビルに侵入し負傷者の観察とトリアージを行い、手際よく救急隊や自衛隊と連携し救助活動を行いました。私は京都第一赤十字病院 DMAT と合同指揮所にて本部活動を行いました。

DMAT チームは京都府立医科大学病院、北部医療センター、京都市立病院、京都医療センター、済生会京都府病院、第二岡本総合病院、山城総合医療センターが参集しました。現場では救急隊によってすでに傷病者が運び込まれている状態で、すぐに活動を開始しなくてはならない状況でした。現場では順調に救護活動が行われましたが、本部が統率を取れなくバタバタしてしまい、反省ばかりの訓練となりました。

緑テントでは、京都 JMAT と京都府看護協会、京都府柔道整復師会、黄色テントでは海上自衛隊医師、看護師により活動されました。いろいろな施設の方々と訓練ができ、特に柔道整復師さんの体格の良さと手際良い処置を見せていただくことが出来ました。終了後、炊き出しのカレーをいただき、ほっとしたのも束の間、デブリーフィングが13時30分に終了予定が14時30分までかかり、次に生かされる教訓となりました。災害時には想像のできない状況下での活動が考えられますので、訓練を積み重ねることによって、どのような災害時にも対応できるスキルを身につけていくことが重要です。帰りの救急車内では全員ぐったりで言葉も出ない状態で帰路に就きました。



成長期のスポーツ障害について

スポーツ整形外科（整形外科医長） 琴浦 義浩 ことら よしひろ

皆さんはスポーツにおける“ケガ”と“故障”の違いについて考えたことがあるでしょうか。大辞林によりますと“ケガ”とは「不注意、不測の事態などのため、身体を傷つけること」、**“故障”**とは「身体に不調が生じて、円滑に働かなくなること」とあります。つまりケガは突発事故であり、防ぐことができないことも多いのですが、故障の原因の多くは使い過ぎ（オーバーユース）や間違った使い方（マルユース）であるため防ぐことができるものと言えます。



子どもの骨には大人とは違い、骨端線という成長軟骨（骨よりも弱い組織）があります。骨端線は肩や肘、膝だけでなく腰など全身に存在しています。スポーツにより過度の負担がかかった場合、より弱い部分である骨端線を中心とした骨軟骨障害を生じることになります。その中には、体からの信号である“痛み”を伴わない、あってもすぐに消えてしまうものがあるため、気づいたときには、障害が進行していることも少なくありません。そして大好きなスポーツが思うようにできなくなって、将来的には変形や痛みを残して日常生活にも支障がでてしまうこともあります。

もうひとつ、皆さんに知って頂きたいことがあります。成長期のお子さんが手や足が痛い、と言った場合によく使われる“成長痛”という言葉についてです。成長痛とはなんでしょうか。1823年にフランス人のデュシャンが最初に報告して以来、諸説がありますが、一般には社会的、心理的な要因が関係して、小児期（2～7歳）の夜間に起こる原因不明の脚の痛みであるといわれています。血液検査や画像検査には異常がありません。関節の動きが悪くなったり、腫れたり、熱を持つようなこともありません。つまりスポーツに取り組んでいるお子さんが痛みを訴えた時には、それは成長痛ではなく、スポーツ障害の可能性が高いのです。

子どもは大人のミニチュアではありません。子どもには子ども特有の障害が起こる可能性があります。そのことを身近で接しておられる皆さんに知って頂くことで、皆と一緒に障害を予防すること、もし障害が出てでも進行しないうちに気づいて、病院を受診して治療することが大事だと考えます。“病院に行ったら、スポーツを中止させられる”と考えることも少なくないかもしれません。確かに、治るために安静が必要だと判断する期間は、スポーツを我慢してもらうことがあります。しかしその期間を何もせずに、ただ治るのを待ってもらうわけではありません。リハビリテーションにより、その障害のある部位だけでなく、そこ以外のところの柔軟性やコンディショニングなどを整えることによって、障害を繰り返さない身体を作ること、復帰した時のパフォーマンスをより上げることができる準備期間であると考えています。

スポーツ整形外科では、そのような想いでスポーツ障害に取り組んでいます。今後は地域での講演やスポーツの現場での検診活動など予防活動にも力を入れていく予定です。皆さんと一緒に、地域の子どもの健やかなスポーツ活動を応援していきます。肘が痛い、膝が痛い、最近思うようにスポーツができない、などスポーツで悩んでおられましたら、いつでも気軽にご相談ください。

◆「無料糖尿病教室」を開催して

糖尿病委員（看護師長） 船越 千里 ふなこし ちさと

去る8月12日火曜日に、本院5階講堂において、無料糖尿病教室を開催しました。今回は平日の午後3時～5時という時間枠で計画し、17名の方にご参加いただきました。秋本和美放射線科部長より「糖尿病足病変」、畑千栄子管理栄養士長より「糖尿病と食事と運動と～生活習慣病予防についてあんな話、こんな話～」と題して講演していただきました。途中休憩では、DVDをみながら座ってできる体操を皆さんと一緒にやり、楽しい時間を過ごすことができました。

糖尿病教室というお題ですので、糖尿病じゃないから関係ないと思われる方もおられるかもしれませんが、生活習慣病予防の啓発としてこれからも毎年開催したいと思っています。どなたでも参加いただけますので、ぜひ、来年多くの方にお越しいただけることを楽しみにしております。

近隣の連携医療機関の先生方

ぬくい泌尿器科医院
ぬくい まきのり
温井 雅紀

「南丹病院と私」



まず、日頃多方面にわたり色々お世話になっております事お礼申し上げます。

さて、私事ですが30歳代のほぼすべて9年間を南丹病院に在職し、本格的に医療というものを実践し同時にたくさんの事を学ばせて貰いました。今思えば、大変危

なっかしい事もあり、特に術後の消化管出血、術中の出血など生命のかかった状態で、まだ若かった私を、いつも内科、外科など他科の先生方に助けて頂いておりました。

とにかく、当時は一人医長でしたので、大変な面も有ったかも知れませんが、それにもまして一人の気楽さもありました。いわゆる、マイナーで、耳鼻科、眼科の先生もまた同様に一人医長でお互に通じるものがあり、仕事の話もあったとは思いますが、遊びや日常の問題の相談相手にもなって貰っていたと思います。他の先生方も述べられるように、医局や病棟でも、ゴルフツアー、スキーツアー、カニツアーもあり、その当時の大らかさとともに、まだ規模の小さいメリットもあったと思います。

また、今なら倫理委員会で認められないような当時最先端（であったと思っています）の膀胱全摘新膀胱造設術も、元助教授の先生をお呼びして、恐らく12時間以上かけて行ったのも大きな思い出です。外科の先生にも助けて貰い、夜の12時くらいに終わった時の手術場婦長のほっとしたような、ご苦労様と言ってくれているような表情が今でも思い出されます。その時の、助手に入ってくれていた先生は、当時大学院生の米田先生でした。その術後を見て頂いた病棟の皆様にも、いつもながらに感謝しています。おかげさまで、その時の患者さん（当時まだ30過ぎ）は今もお元気で排尿も自力で行われていると思います。

現在、開業して14年目、泌尿器科単科を開業するという冒険をしましたが何とかやって来れましたのも、皆様の陰ながらのご援助と思っています。今後も、色々とお世話をかけ

ますが宜しく願います。



嶋村歯科医院
しまむら こういち
嶋村 浩一

「お世話になっています」



嶋村歯科医院は初代院長が大正3年8月10日に開設し、今年で丁度100周年を迎えることができました。ひとえに地域の皆様方のおかげと感謝しています。

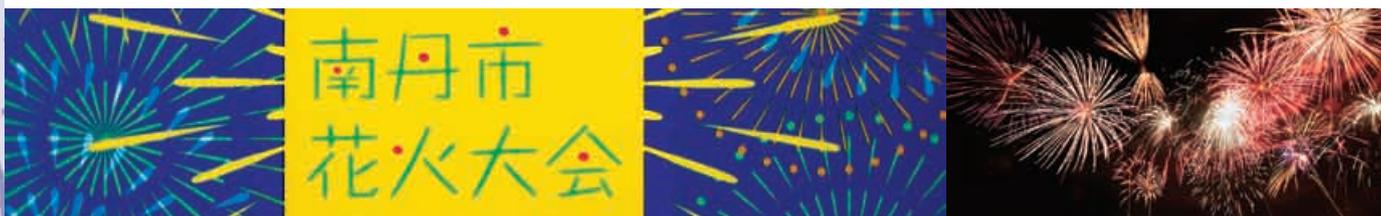
当院では南丹病院の歯科口腔外科に昭和40年頃には菌性病巣感染、50年代には増加する不定愁訴の患者対応、60年代から平成に入ってから顎関節症、ドライマウス、味覚障害と単なる外科処置や鑑別診断の依頼以外の難症例も数多くお世話になっています。

平成23年11月にBP製剤投与患者の外科処置について亀岡市医師会と口丹波歯科医師会の合同勉強会を開催した折にも、歯科口腔外科の木村先生に講演を頂いています。中井部長のみならず医局の先生方と数多くの患者さんを通じて連携を深める事ができることを感謝しています。

また歯科的疾患、とりわけ歯周病と糖尿病、虚血性疾患そして早産などの関連性について新しいEBMが次々と紹介される昨今です。歯科の立場では是非とも南丹病院の歯科口腔外科が各専門診療科との太いパイプ役として今後ますます存在意義が高まることを、そして地域住民の皆様が生涯を通じ（ターミナルの時点まで）食事を美味しく摂って頂くための病診連携のご指導もお願いしたいと思っています。

故梶田院長が精魂こめて発展されてきた南丹病院が辰巳新院長の時代になってからますます地域に根ざした病院として発展されることを祈念しています。





京都南丹市花火大会実行委員会統括事務局長 さいとう たけし 齊藤 武志

去る8月14日、第68回京都南丹市花火大会（実行委員長 てらだ ひろかず 寺田弘和）が開催されました。まずは大きな事故もなく無事終えることができたことを、ご協力ご支援いただきました関係団体様に厚く御礼また感謝申し上げます。

戦後間もない昭和22年、戦没者の慰霊と町の人々の慰めにと20発の花火を打ち上げたのがこの大会の始まりだそうで、68回目を迎えたわけですが今まで一度も中断されることなくつづけてきました。今回より「やぎの花火大会」から「南丹市花火大会」と名称を変更し、特に観客の安全面に配慮して運営を計画しました。

昨年と大きく違ったところは、有料会場が大きく広がったこと、大堰橋を打ち上げ中は通行止めにする、露天商を1か所での出店にする、の3点です。有料会場を広げたことにより会場内は通路もほぼ確保でき、また橋の通行止めも功を奏し、例年橋の西詰が混乱状態だったのですが、帰宅時のお客様の流れもスムーズに流れました。安全面を考えて露店商を1か所にしたのですが、思わぬところに効果があり、ゴミの量が昨年の半分以下に減りました。これはお客様のマナーが良かったせいかもしれません。

花火大会当日は心配されていた天候も回復し、昼過ぎに降った雨のせいで気温もそれほど上がらず、川の水位は少し上がりましたが、これが灯ろうがきれいに流れる速さとなる幸運もあり、少し風もあり花火の煙もきれいに流れてくれたおかげで大変すばらしいものとなりました。この花火大会の魅力は何といても、観覧席が近くて花火を視覚からだけでなく、音でも味わえる。また、川面に映る花火の光、このロケーションは他では味わえないものがあり、自信をもって自慢できる花火大会ではないかと思います。なので68回も続いているのではないのでしょうか。今回の花火大会で一番感じたことが、ゴミのこと、会場内での場所取りなど、お客様のマナーが非常に良かったように感じました。

今回、いろいろと運営計画を変更したことで、皆様からたくさんのご意見、ご要望をお聞きしました。また来年度はそれらのご意見を参考にし、より多くの皆様が愉しんでいただける花火大会にしたいと思います。



昭和22年から開催されている歴史ある花火大会。8月14日（木）20:00頃～21:00頃の1時間で、連発早打ち、美術花火などの後、特大スターマインでクライマックスを迎える。毎年約5,000発以上もの打上花火と同時に大堰川に浮かべられた約1,000基の灯籠流しも幻想的。今年も約90,000人の観客で賑わった。

……… 公立南丹看護専門学校 学校公開のお知らせ ……

●オープンキャンパス

本年度のオープンキャンパスは8月8日(金)に終了しました。

●学校見学会

本年度1回目の見学会は8月30日(土)に終了しました。第2回目は11月1日(土)10時~11時に予定しており、10月24日(金)17時まで申し込みを受け付けています。



……… 申込について ……

- ①電話またはFAXで次の事項を申し込んでください。・氏名・学校名(在学名/社会人)・連絡先(TEL)
 - ②同伴される保護者がおられましたらお教え下さい。
- 受付は30分前より行います。駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。
〒629-0196 南丹市八木町南広瀬3番地1 TEL 0771-42-5364 FAX 0771-42-5422

公立南丹看護専門学校 平成27年度 学生募集

●推薦入試

募集人員：10~20名程度

願書受付：平成26年11月6日(木) ~ 11月12日(水) 期間内必着

試験日時・科目：

試験日	科目	時間
平成26年 11月19日(水)	国語総合 (古文・漢文を除く)	9:30~10:30
	面接	10:45~

詳しくは公立南丹看護専門学校のホームページ
<http://www.nantan-kango.ac.jp> をご覧下さい。

●一般入試

募集人員：40名(推薦入学者を含む)

願書受付：平成26年12月4日(木) ~ 12月15日(月) 期間内必着

試験日時・科目：

試験日	科目	時間
平成27年 1月7日(水)	国語総合 (古文・漢文を除く)	9:30~10:30
	英語I・II 数学I・A	10:45~11:45 13:00~14:00
	面接	9:30~
平成27年 1月8日(木)	面接	9:30~

看護師・助産師募集(正職員・臨時職員)

● 正職員・臨時職員共に院内保育所の利用可。

● 寮(正職員のみ) 利用可(月額10,480円)

〒629-0197 南丹市八木町八木上野25番地
公立南丹病院 総務課人事係 TEL 0771-42-2510(代) まで
詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。

<http://www.nantanhosp.or.jp>



院内保育所に託けて頑張っています

編集後記

平成26年8月から放射線治療棟の建設が始まっております。南丹医療圏に放射線治療器のある病院が無く、ご不便をお掛けしておりましたが、平成27年10月から治療開始を予定しております。念願のがん治療が当院でできるようになれば、少しでも患者さまのお役に立てると思っております。

また、院内保育所「たんぽぽ」の増築も完成に近づき、さらに施設や設備の充実が進んでまいりました。

この南丹医療圏の地域医療に貢献できる病院になればと考えております。(広報委員 S.M)



〈お詫びと訂正〉 前月号 (Vol.22) p8「病院に勤務して」の記事の作成者の吉田潤子さんの氏名が吉田美希さんになっておりました。訂正してお詫びいたします。